広島大学附属三原学校園研究紀要　第７集　2017　pp. 201-208

美　術　科

資質・能力の育成のための表現と鑑賞の関連的な題材開発

—作家研究から発想を得た小作品の制作と展覧会の開催を通して—

松　本　裕　子

A study on Creating a Teaching Material Collaborated Expression and Appreciation to develop students' quality and competence -Throughout Making a Small Art and its Exhibition from Learning an Artist-

Hiroko Matsumoto

The purpose of this study is three folded; 1) to create a teaching material collaborated expression and appreciation, 2) to improve lessons to make them "active, interactive, deep", 3) to clarify a new direction of developing students' quality and competence in terms of nature of art education. The features of this study are (a) that the author announced the goal of the lesson; having an exhibition and interacting with visitors, (b) that the author developed a teaching material for students to conduct a project actively about an artist, (c) students create a small art inspired by the style and belief of the artist. The author analyzed students' work on the project and the small art and the effect of interaction in a small group through creating arts. As a result, both expression and appreciation work positively; students develop their ability to appreciate arts deeply, and improve their arts willingly. (p.201-208)

１　問題の所在と研究の目的

次期学習指導要領改訂に向け，美術科においても，育成すべき資質・能力の明確化と「主体的で，対話的な，深い学び」への学習・指導の改善・充実が求められている[1)]。

広島大学附属三原学校園では，新領域「希望（のぞみ）」を核とした自己開発型教育の開発に取り組んでおり，育成すべき資質・能力を「キャリアプランニング能力，人間関係形成・社会形成能力，課題対応能力」の３つに焦点化している。また，これらの資質・能力を全教育活動で育むべき，通教科的能力と位置づけ，全教科指導において，「通教科的能力と関連的に育む教科の本質に根ざした資質・能力」の育成に取り組んでいる。このことを踏まえ，図画工作・美術部会は，「通教科的能力と関連的に育む美術科の本質に根ざした資質・能力を次のように設定した[2)]。

- 造形活動を通して，新しい可能性をイメージする力（キャリアプランニング能力と関連）
- 造形活動において，自分の価値意識をもって批評し合い，新しい価値を創り出したり他者との関係を深めたりする力（人間関係形成・社会形成能力と関連）
- 表したいことをもとに思考・判断・表現する，創造的な問題解決力（課題対応能力と関連）

本研究の目的は，美術科における表現と鑑賞の関連的な題材を開発し，「主体的で，対話的な，深い学び」へ向けた授業改善を図ることにより，上記の資質・能力の育成の在り方を明らかにすることである。題材開発にあたっては，国語科および幼稚園・小学校との連携を図りながら，生徒が交流や発表を意識して作家研究や作品制作に取り組むことを特徴とした。

2　研究の構想

(1)　研究仮説

作家研究で見つけた「○○スタイル」を生かして制作した小作品をミニ美術展で紹介することを目的とした中学校美術科の「A 表現」「B 鑑賞」の関連題材を開発する。この学習過程において，生徒は美術作家や作品への関心を高めながら，主体的で創造的な鑑賞や表現に取り組むことができ，「通教科的能力と関連する美術科の本質に根ざした資質・能力」を育成することができるであろう。

(2)　研究構想

研究構想を図１のようにとらえて研究に臨んだ。

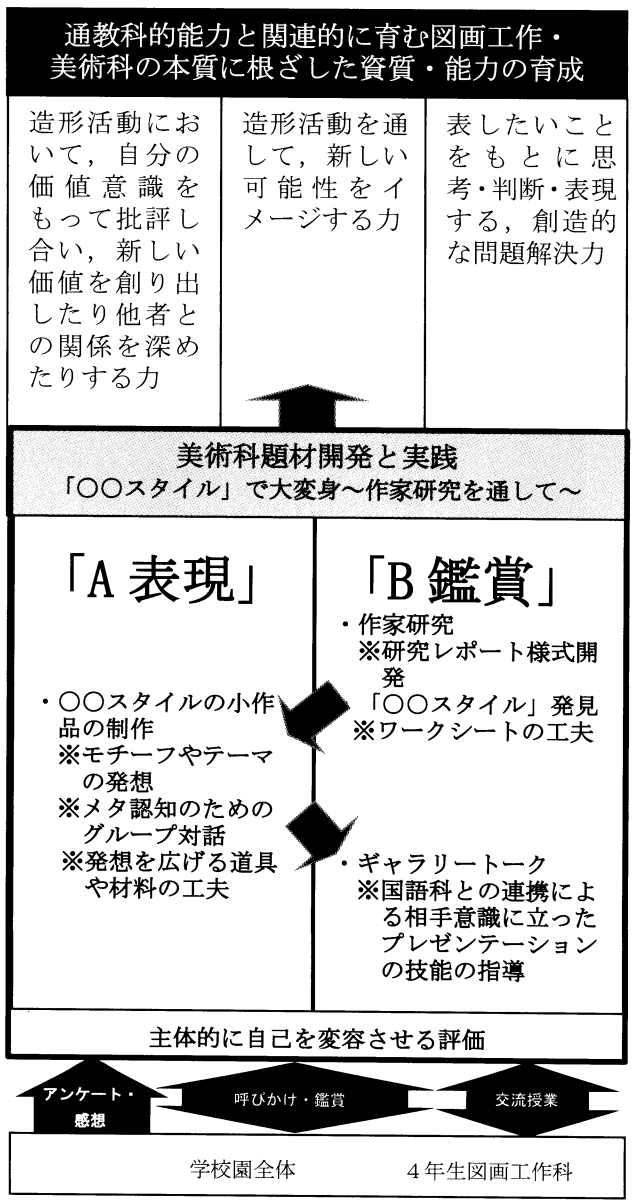


図１　研究構想図

3　研究実践

(1)　題材名

「○○スタイルで大変身」～作家研究を通して～

(2)　題材について

作家研究を経てその作家の「様式（スタイル）」や考え方をもとに発想した個々の作品を制作し，展覧会を企画・開催する。作家研究や制作により，伝統等から発想を得て確立された美術作家の「表現様式（スタイル）」のよさに気付くなど，対象を深く鑑賞する能力を高めていくとともに，道具・材料を選択し技法を工夫するなどして，自分が表したいテーマや「○○スタイル」をよりよく表現する力を身につけさせていく。また企画展の主催者の立場から，レイアウトや解説を工夫する活動を通して，美術作品を通して他者と交流することの意義を深くとらえさせていくものである。

(3) 題材の目標及び計画（全 10 時間）

①題材の目標

美術作家に関する調査研究や，「○○スタイル」で小作品を制作することにより，伝統等から発想を得て確立された美術作家の「表現様式（スタイル）」や「ものの見方や考え方」のよさに気付くなど，対象を深く鑑賞する能力を高めるようにする。またレポートと小作品で構成したパネルを展示することにより，美術作品を通して他者と交流することの意義の理解を深めるようにする。

②題材の評価規準

＜美術への関心・意欲・態度＞

作家研究や展覧会に興味を持ち，調査したり，小作品を描いたり，作品のよさや美しさについて，話し合ったりする。

＜発想・構想の能力＞

「○○スタイル」で，表したい小作品の主題や内容を発想できる。

主題を効果的に伝えるためのレイアウト等の工夫を構想できる。

＜創造的な技能＞

材料や道具を選択し，技法を工夫するなどして，

自分が表現したい主題を表現することができる。

＜鑑賞の能力＞

作家研究や制作，展示を工夫する活動を通して，鑑賞の視点を深めたり，見方や感じ方を広げたりすることができる。

③題材の計画

第１次　昨年度の企画展の振り返りと次の企画展の内容の構想・・・・・・・・・・１時間

第２次　作家研究　・・・２時間

第３次　「○○スタイル」の小作品の制作・・・４時間（本時２/４）

第４次　展覧会の準備・実施・振り返り　・・・３時間

(4) 題材で育む通教科的能力と関連的に育む美術科の本質に根ざした資質・能力と評価方法

「通教科的能力と関連的に育む美術科の本質に根ざした資質・能力」について，題材における具体的な姿や指導の手立て，評価方法及び，期待する主体的な学びへの効果を表１のように構想した。

(5) 授業の実際

授業は，平成 28 年 11 月から２月にかけて８年で実施し，研究対象は８年２組 40 人とした。なお，本来なら，展覧会を終えての振り返りを持って報告したいところであるが，都合により，小作品の制作とその振り返りまでを報告する。

①昨年度の展覧会の振り返り

導入として，昨年 12 月に，グループで，テーマを決めて，数枚のアートカードを選んで展示し，小学生にギャラリートークをしたことを写真（図２）や映像で振り返った。そして，昨年度の成果や課題として挙がっていた次のような感想を確認し，今年度の取組の方向性を確認していった。

＜平成 27 年度展覧会後の感想＞

・今回は，友達が中心で説明してくれたので，今度はぼくが紹介してみたいです。お気に入りのものを絵にして紹介してみたいです。
・人を引き付けるデザインやアピールがしてみたい。
・クラス全員でミニじゃない美術展をしてみたい。そうすることで，選んだ意図などからその人のことを知ることができるから。今後の生活にもつなげられるのではないか。

図２　昨年度のギャラリートークの様子

②作家研究

図３のフォーマットを開発し，美術室の図録や家庭にある書籍等で，調査したい作家を選び作家研究に取り組んだ。足りない情報は，インターネットを活用した（図４）。また，完成した作家研究レポートをグループで紹介し合い，それぞれの作家を選んだ理由や，共感したことなどを交流した（図５）。

図４　美術室やパソコン教室での調査の様子

図５　調査研究の交流の様子

③「○○スタイル」の発想

作家研究のフォーマットに，「作品の特徴やよさ」を捉える要素として「モチーフ，形，色，イメージ」や「作者独自の見方や考え方」を調査して記載する項目を設定した。そして，解説するだけでなく，さらに自分が小作品を表現することを通して，他者に伝える価値のあるものを見出そうと呼び掛けた。「○○スタイル」という形でとらえ直し，さらに，それをまとめたり，焦点化したりして，私が描く「○○スタイル」を発想させた。

表１　題材で育む「通教科的能力と関連的に育む教科の本質に根ざした資質・能力」

通教科的能力		人間関係形成・社会形成能力			キャリアプランニング能力			課題対応能力	
教科の本質に根ざした資質・能力		作品などの主題設定・追求を通して自分の価値意識をもたせ，異なった見方や考え方を尊重しながら，批評し合うことを通して，自分の中に新しい価値（豊かな情操）を創り出したり，他者との結びつきを深めたりすることができる。**（造形活動において，自分の価値意識をもって批評し合い，新しい価値を創り出したり他者との関係を深めたりする力）**			造形活動を通して，自分の生き方や社会とのかかわり方に関する考え方を創り出すことができる。**（造形活動を通して，新しい可能性をイメージする力）**			主題を生み出し，自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして構想を練り，粘り強く創造的に表現することができる。（表したいことをもとに思考・判断・表現する，創造的な問題解決力）	
指導の手立て		各自が考えた「〇〇スタイル」が作品から伝わる小作品や展示内容になっているか，客観的な意見を出し合うようにする。			自ら調査したことや，自分らしさを伝えたいという目的を持って発信したり，様々な視点を持って見たりすることにより，これまで，気づかなかったよさや美しさに気づくようにする。			昨年度の展覧会の反省から出発し，魅力的な展示の企画運営をふまえて，個人で調査したり，友達からの客観的な意見を参考にしたりして，小作品を工夫して制作し，展覧会ができるようにする。	
具体的な姿		作家研究をもとに作成した「〇〇スタイル」の小作品について，説明し合うことで，美術に関する見方や考え方を広げることができる。			自分が見つけた「〇〇スタイル」で小作品を作成して展覧会で紹介することで，，美術の表現や鑑賞を通して自分の考えを発信することのよさに気付くことができる。			①作家研究をもとに，小作品の主題を発想できる。 ②材料や道具を選択し技法を工夫して表現できる。 ③相手意識に立ったプレゼンテーションの工夫など粘り強く展覧会の成功に向けて取り組むことができる。	
評価方法等		事前事後アンケートや記述により評価する。（アンケート・ワークシート）			事後の感想をルーブリックにより評価する。（振り返りシート）			レポートや小作品，展覧会への取組状況をルーブリックにより評価する。（ワークシート・作品・観察）	
パフォーマンス課題		①作家の「〇〇スタイル」についてワークシートに記述し，説明する。	②交流した気づきをワークシートに書く。	③ギャラリートークをする。	④作家研究の振り返りを書く。	⑤小作品制作の振り返りを書く。	⑥ギャラリートークの振り返りを書く。	⑦作家研究をもとに，「〇〇スタイル」と小作品の主題を発想する。	⑧小作品を制作し，作品解説シートに工夫点を書く。
ルーブリック	A	友だちの構想を自分と比較したり，共感したりしながら聞き，自分の「〇〇スタイル」を説明できている。	見方や考え方を広げた具体的な記述がある。	相手意識に立って，自分が感じたことや工夫したことを豊かな表現を交えて伝えている。	美術作家の生き方や考え方に共感したり，美術を通して自分の考え広げる良さについて記述したりできている。	「〇〇スタイル」の作品制作のよさを実感し、根拠を挙げて記述できている。	美術を通して自分の考えをさらに発信することの良さや，具体的な変化に気付いている。	作家の特徴と自分の考えを明確にした「〇〇スタイル」と主題が発想できている。	作品に適切な工夫が見られるとともに，振り返りに根拠を伴って工夫の記述ができている。
	B	「〇〇スタイル」を説明できている。	他者の考えを聞いて、見方や考え方を広げた記述がある。	相手意識に立って，自分が感じたことや工夫したことを伝えている。	美術を通して自分の考え広げる良さについて記述できている。	「〇〇スタイル」の作品を制作したことのよさを実感し、記述できている。	美術を通して，自分の考えを発信することの良さに気付いている。	「〇〇スタイル」と主題が発想できている。	作品に適切な工夫が見られるとともに，振り返りに記述できている。
	C	「〇〇スタイル」の説明ができていない。	他者の考えを聞いて、見方や考え方を広げた記述がない。	相手意識に立って，自分が感じたことや工夫したことを伝えていない。	美術を通して自分の考え広げる良さについて記述できていない。	「〇〇スタイル」の作品制作のよさを記述できていない。	美術を通して自分の考えを発信したことの良さに気付いていない。	「〇〇スタイル」と主題が発想できていない。	作家研究で得たことを根拠として主題や技法を発想し工夫して表現できていない。
期待される主体的な学びへの効果		自分が感じたよさや美しさを工夫して他者へ伝えようとするようになる。			また，新たな方法で自他の作品等を交流したいと考えるようになる。			主題をより効果的に表現するための方法を考えようとするようになる。	
規準との関連 次期学習指導要領の評価の観点及び題材の評価	次期	次期学習指導要領の評価の観点との関連	題材の評価規準（現行学習指導要領による）		次期学習指導要領の評価の観点との関連	題材の評価規準（現行学習指導要領による）		次期学習指導要領の評価の観点との関連	題材の評価規準（現行学習指導要領による）
	知識・技能	○	＜鑑賞の能力＞ 作家研究や制作，展示を工夫する活動を通して，鑑賞の視点を深めたり，見方や感じ方を広げたりすることができる。		○	＜鑑賞の能力＞ 作家研究や制作，展示を工夫する活動を通して，鑑賞の視点を深めたり，見方や感じ方を広げたりすることができる。		◎	＜創造的な技能＞ 材料や道具を選択し，技法を工夫するなどして，自分が表現したい主題を表現することができる。
	思考・判断・表現	○			○			◎	＜発想・構想の能力＞「〇〇スタイル」で，表したい小作品の主題や内容を発想できる。主題を効果的に伝えるためのレイアウト等の工夫を構想できる。
	学習態度	◎	＜美術への関心・意欲・態度＞ 作家研究や展覧会に興味を持ち，調査したり，小作品を描いたり，作品のよさや美しさについて，話し合ったりする。		○			○	

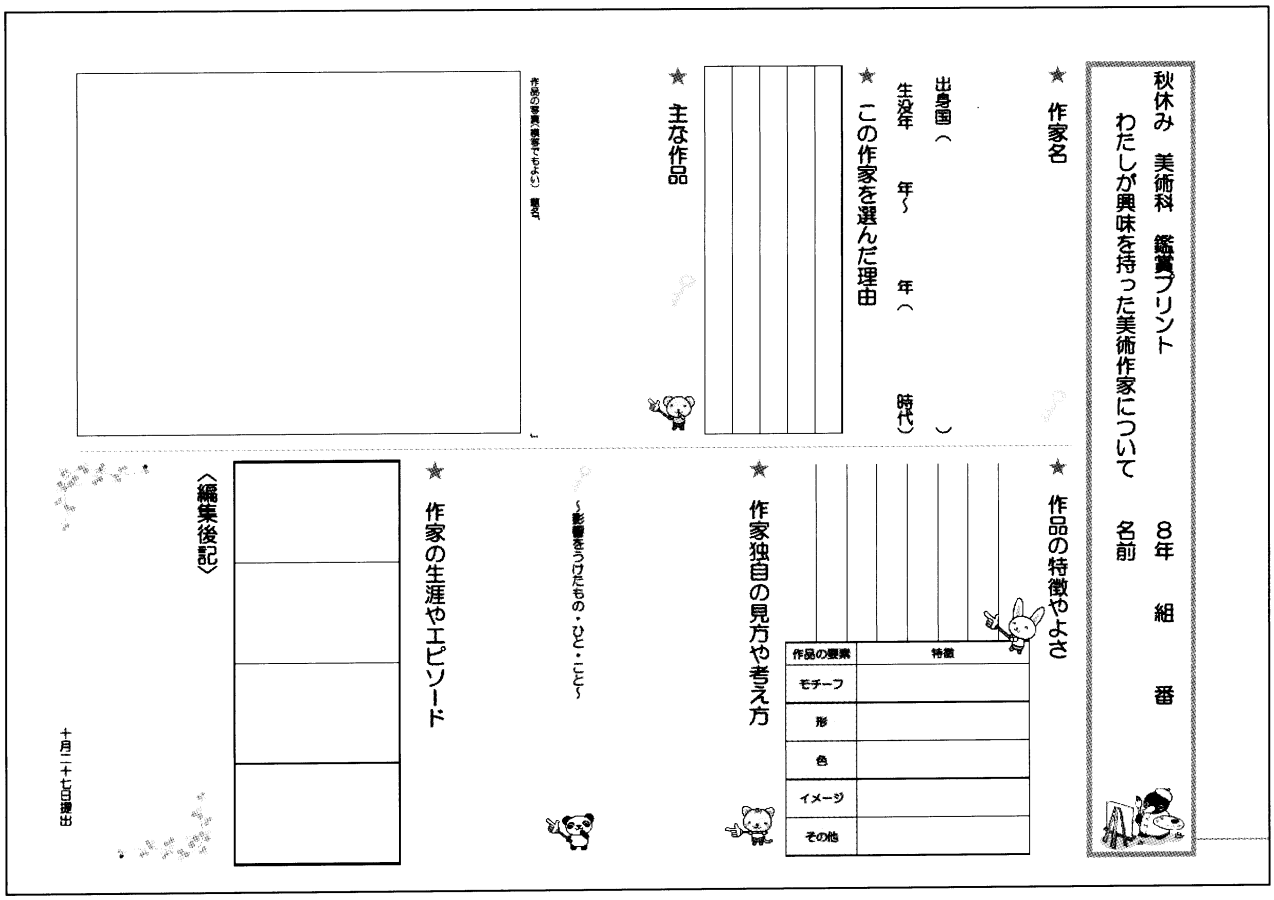

秋休み　美術科　鑑賞プリント　8年　組　番
わたしが興味を持った美術作家について　名前
★作家名
出身国（　　）
生没年　年～　年（　時代）
★この作家を選んだ理由
★主な作品
作品の写真（複数でもよい）　題名
★作品の特徴やよさ
作品の要素 | 特徴
モチーフ
形
色
イメージ
その他
★作家独自の見方や考え方
～影響をうけたもの・ひと・こと～
★作家の生涯やエピソード
〈編集後記〉
十月二十七日提出

図３　作家研究レポートのフォーマット

④モチーフ・テーマの発想

さらに「○○スタイル」で描きたい写真選択やテーマを発想していった。生徒は，ペットや夏休みの課題で描いた動植物，旅行や幼いころの思い出の写真，風景写真など様々なものを選択し，それぞれの主題を発想していった。また，各自の構想が見る人に伝わるものになっているのか，図６の方法でグループ協議をした（図７）。

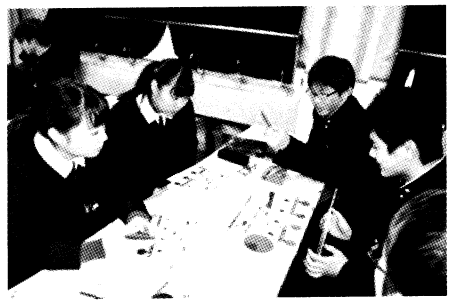


図７　グループ協議の様子

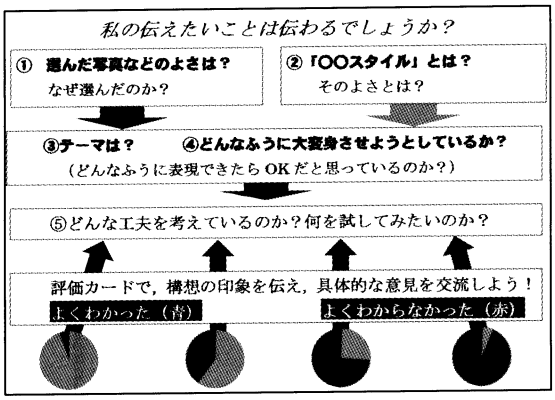


図６　交流の方法

⑤小作品の制作

写真やスケッチをもとに，「○○スタイル」を生かした表現に取り組んだ（図８）。学校から提示した道具や材料は図９の通りである。

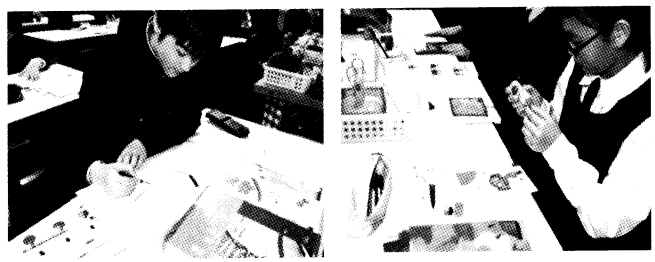


図８　制作の様子

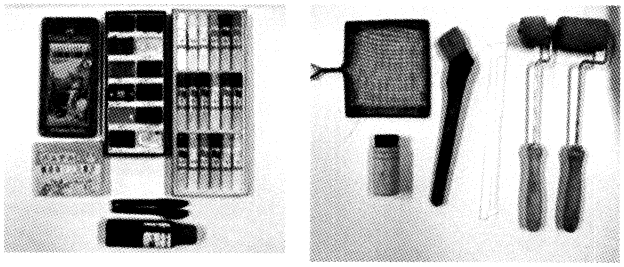


図９　使用した描画材と道具

⑥ギャラリートークメモの作成とギャラリートークの練習（国語科と連携）

小作品の完成後，ギャラリートークメモとして，次の５点についてまとめた。これをもとに，国語の時間に，プレゼンテーションの練習をすることとした。

1　私が調べた作家
2　私が見つけた「○○スタイル」
3　私の作品のテーマとテーマ設定の理由
4　工夫したところ，見てほしいところ
5　クイズなどトークの工夫について

⑦ギャラリートーク

４年生にクイズやジェスチャーを交えて，自作の解説をする。主な流れは次のとおりである。

・挨拶，説明
・グループ移動
・ギャラリートーク①（10 分）
・ギャラリートーク②（10 分）
・全体振り返り・挨拶
・８年振り返り

⑧題材全体の振り返り

ギャラリートークの感想や，展覧会のアンケートをもとに，自分たちの取組の成果課題や価値を考える。

４　結果と考察

(1) 造形活動を通して，新しい可能性をイメージする力について

作家研究シートの編集後記の記述内容により評価した。特に記述内容を指定してはいないが，知識や見方が広がったと記述した生徒は 20 人であった。さらに，14 人の生徒は，調査結果を振り返って，作家が他の作家に影響を受けて，スタイルを確立していく様子や，考え方，生き方に共感したことを具体的に記述することができていた（表２）。

表２　編集後記の記述内容（表１課題④）

評価基準		人数（人）
A	美術作家の生き方や考え方に共感したり，美術を通して自分の考え広げる良さについて記述したりできている。	14
B	美術を通して自分の考え広げる良さについて記述できている。	20
C	美術を通して自分の考え広げる良さについて記述できていない。	6

(2) 造形活動において，自分の価値意識をもって批評し合い，新しい価値を創り出したり他者との関係を深めたりする力について

小作品の制作の導入時に，生徒の自己評価，及び，ワークシートの内容から，評価を行った。小作品の制作に入る段階で，37 人の生徒が，「○○スタイル」を説明できており，交流の感想に，自分との比較や共感がうかがえる記述がある生徒が，32 人いた。説明できなかった３人の生徒も，こののち道具や材料との出会いの中で，説明することができた。

表３　「○○スタイル」の説明内容（表１課題①）

評価基準		人数（人）
A	友だちの構想を自分と比較したり，共感したりしながら聞き，自分の「○○スタイル」を説明できている。	32
B	「○○スタイル」を説明できている。	5
C	「○○スタイル」の説明ができていない。	3

また，交流の際の記述は，表４のような状況であった。友達の発言を聞いて，自分の発想方法と比較しながら友達の意見を聞いたことで，自分との共通点や相違点に着目して具体的な感想を書くことができていたことがわかった。

表４「〇〇スタイル」の交流記録（表１課題②）

評価基準		人数（人）
A	見方や考え方を広げた具体的な記述がある。	32
B	他者の考えを聞いて、見方や考え方を広げた記述がある。	5
C	他者の考えを聞いて、見方や考え方を広げた記述がない。	3

(3) 表したいことをもとに思考・判断・表現する，創造的な問題解決力について

表５に見られるように，小作品の制作に取り掛かる前の段階では，主題の発想ができていない生徒もいたが，その後，全員がこれまで描いたスケッチや写真を持参して，テーマを決定し，それぞれ工夫して小作品に取り組むことができていた。

表５　作家研究をもとに，「〇〇スタイル」と小作品の主題を発想（表１課題⑦）

評価基準		人数（人）
A	作家の特徴と自分の考えを明確にした「〇〇スタイル」と主題が発想できている。	31
B	「〇〇スタイル」と主題が発想できている。	4
C	「〇〇スタイル」と主題が発想できていない。	5

また，小作品とその解説シートを総合的に評価した結果は，表６のとおりである。

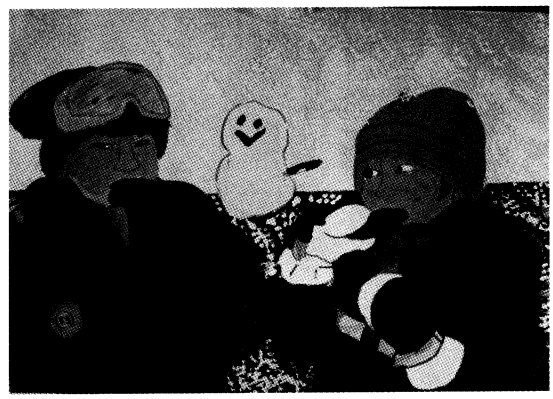
表６　小作品の作品解説シートの記述（表１課題⑧）

ルーブリック評価		人数
A	作品に適切な工夫が見られるとともに，振り返りに根拠を伴って工夫の記述ができている。	24
B	作品に適切な工夫が見られるとともに，振り返りに記述できている。	11
C	作家研究で得たことを根拠として主題や技法を発想し工夫して表現できていない。	5

多くの生徒が作家研究で捉えた「〇〇スタイル」のイメージを色や形で工夫して表現しようとしたことがわかる作品や解説となっていた。C と判断した生徒は，作品の完成に時間がかかっている者である。具体的な事例を図 10～13 に示す。

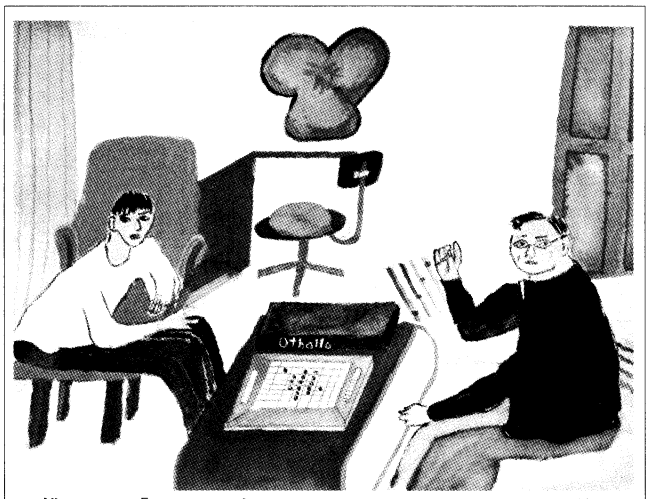
僕はゴッホ展に行って興味を持ったことを思い出して，「はっきりスタイル」を見つけました。ゴッホの絵はすべてがはっきりと濃く感じたからです。小作品は，「真夜中のフクロウ」を描きました。とても普通なテーマですが，それが一番ゴッホのスタイルとあっていると思ったからです。

図 10　「真夜中のフクロウ」



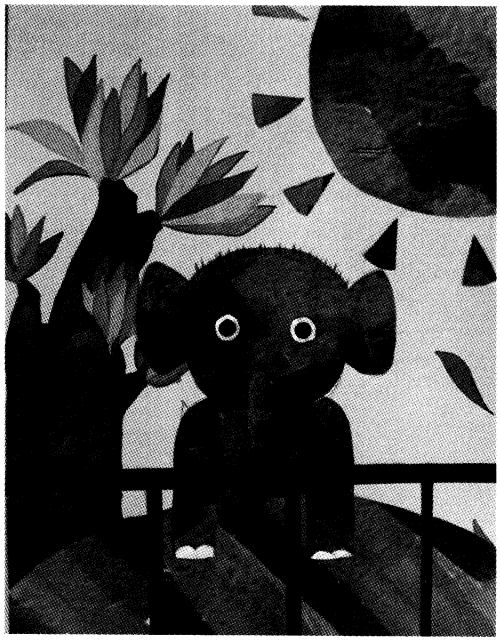
私は，ゴッホの絵を見て「鮮やかスタイル」テーマで作品を作りました。ゴッホの線のような描き方がそのあざやかさを生み出しているのかもしれません。自分は絵を描くときにあまり，リアルに描くことができません。でも，ゴッホの作品を見て，自分もゴッホのような絵を描いてみたいなーと思ったからリアルさも追求しました。

図 11　「スキー場の姉妹」



僕は，「おじいちゃんとのオセロ」という作品を描きました。小さいころにやっていたオセロを久しぶりにやった時の楽しい感情をダリのような具体例で表したいと思ったからです。そしておじいちゃんは，花が好きなので，花言葉で楽しい感情を表してみようと思いました。そこで，パンジーの絵を描いて「幸福」を表しました。

図 12　「おじいちゃんとのオセロ」



エリック・カールから見つけたスタイルは，「わくわくする鮮やかスタイル」です。明るい色をたくさん使って見えやすくしたり，表現する動物に個性を持たせたりするなど工夫しました。テーマは，「動物園のゾウ」です。

図 13　「動物園のゾウ」

図10と11は，同じゴッホからの発想であるが，解説を読むと，それぞれ受けとめたスタイルが異なり，さらに，それを各自の思いを持って表現すると全く印象の違う作品となって表現されていることがわかる。また，図12は，楽しかった場面を描いた生活画にダリからの発想として，感情を象徴するための具体物を取り込むことにより，鑑賞者に考えさせる作品になっている。また，図13は，エリック・カールの表現方法を模倣してみたいという意欲が生んだ作品である。このように，多くの生徒が自分で見つけた「○○スタイル」と実生活の経験をつないで，自分らしい作品を作るよう，工夫を凝らすことができたといえる。なお，絵に添付した解説文は，ギャラリートーク用に書いた作品解説メモであるが，制作意図がわかると同時に，展覧会で他者に伝えたいという意識を持って，制作に取り組んできた生徒の意欲が伝わるものとなっていた。

5　成果と課題

表現と鑑賞の相乗効果により，対象を深く鑑賞する能力を高めたり，自作を客観的に捉え直し主体的に主題に迫る表現を工夫したりする姿が見られた。今後も，生徒が主体的で，自ら学ぶ意義ややりがいを感じられるような表現と鑑賞の関連題材を工夫することにより，資質・能力の向上を図っていきたい。

＜注および引用文献＞

1)　中央教育審議会教育課程企画特別部会「論点整理」（平成27年8月26日付）
(http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/053/sonota/1361117.htm)

2)　広島大学附属三原幼稚園・小学校・中学校「平成28年度　第19回幼小中一貫教育研究会要項」p.49，2016